

記載例

事件番号・係名を記載してください。

平成22年(ワ)第〇〇〇号 〇係

作成者・作成年月日を記載してください。  
その後、一覧表のやり取りの過程で、加筆・修正等をした場合は、その履歴(年月日、加筆・修正者)を記載してください。

平成24年〇月〇日原告作成  
平成24年〇月〇日被告記入  
平成24年〇月〇日原告修正

時 系 列 表

年月日	原告						被告			
	場所	参加者	内容	認否	関係図面	証拠	年月日	認否	内容	証拠
H13・6・30	被告宅(本件建築予定場所)	原告 被告夫妻	原告に被告宅に来てもらい、家を建て替えるについて一般的な話を行う					認める。		
H13・8・6	被告宅	原告 被告夫妻	原告は、被告から基本的な家造りの希望を聞いた。その際、以前に依頼した他の設計事務所2社作成の図面写しと、被告の妻が書いた基本プランのスケッチを受領し、原告側で練り直して再度、持参することになった。		見取図 敷地図面			認める。	被告は、原告に対し、新幹線や横須賀線の騒音、道路を挟んだ向かいにあるマンションのガレージの騒音など現在の家屋の問題点を説明し、被告の新築建物に対する希望等を説明した。また、現在の建物を建築する際、本件土地南側はセットバックしており、敷地の範囲については、そのセットバックを確認の上、進めてほしいと要請し、被告らが考えていた新築建物の基本スケッチを交付した。また、参考のために他の設計事務所2社作成の図面写しも交付した。 原告は、以上の話に基づき検討するとして図面を持ち帰った。	甲1, 2
H13・8・23	原告事務所	原告 被告夫妻	原告は、8月6日に持ち帰った基本スケッチを基に、1/100の平面プランを作成して被告に提示した。また、平面プランを見せながら、地下車庫からの一階への階段の位置、地下車庫部分における収納スペース、2階部分の水周り、クローゼットの位置、屋上の物干し台へのアクセスなどについて、被告の要望を聞いた。		平面プラン	甲3の1 及び2		認める。		
			このころ、被告の妻と電話で会話したことはない。	否認する。			H13.8.24		被告の妻は、原告に電話をし、クローゼットの位置を前日の説明とは異なり、〇〇にして欲しいと伝えた。	
H13・8・30	被告宅	原告 被告夫妻	原告は、被告夫妻に対し、これまでの打合せを基に設計案2案を提示した。被告夫妻は、原告が提示した設計案のうち1案を選択し、居間を一部吹き抜けにすることを要望した。原告は、総工費が予定額よりも高くなることを説明した。		設計案と題する図面	甲4の1 及び2 甲5の1 及び2		否認する。	この段階で1案を選択したことはない。また、被告の妻が吹き抜けにできるかどうか質問したが、工事費が増加するとの説明は聞いていない。	

一覧表のやり取りの過程で、加筆・修正等をした場合は、加筆・修正した箇所にアンダーラインを施してください(カラー文字はできるだけ使わないようにしてください。カラー文字を使った場合は、プリントしたものを別途提出してください。)

一覧表のやり取りの過程で、加筆・修正等をした場合は、加筆・修正した箇所にアンダーラインを施してください(カラー文字はできるだけ使わないようにしてください。カラー文字を使った場合は、プリントしたものを別途提出してください。)